元気なまちかど

No.1 薬物の誘いから断る勇気
薬物乱用防止教室

市内の小学校6年生児童を対象とした薬物乱用防止教室が、市少年補導委員会の方々を講師として市内各小学校で開催されました。

最近、覚せい剤や大麻に加え危険ドラッグによる薬物の乱用が低年齢化しています。この教室では、小学生のうちから薬物乱用の恐ろしさや薬物の誘いから断る勇気を理解してもらうため実施されています。

1月30日には大原小学校で開催され、薬物は依存性が強く、一度でも手を出せばやめることができず脳や体も元の正常な状態には戻らないという講師の話に児童たちは真剣に聞き入っていました。

▲薬物の標本の説明を熱心に聞く児童

No.2 子ども駅長の合図で出発進行
信楽高原鐵道の新型車両出発式

信楽高原鐵道に新型車両SKR501号が導入され、2月5日から運行が始まりました。

新型車両は、高原の新緑や茶畑をイメージした緑色の外観で、車内は木目調の落ち着いた和の雰囲気となっています。座席は進行方向を向いて配置されており、車窓の景色を楽しむことができます。

同日に信楽駅で行われた出発式では、岩永市長をはじめ関係者がくす玉を割って祝い、子ども駅長を務めた雲井小学校6年の里見しのさんの合図とともに新しい車両が走り出しました。

▲信楽駅を出発する新型車両

No.3 お年寄りの日常生活を体験
中学生の高齢者疑似体験

高齢者の身体を疑似体験する「インスタント・シニア」が、甲賀中学校1年生を対象に行われました。

生徒たちは、白内障を体験できるゴーグルや、手や足におもりなどの器具を着けることで、お年寄りの日常生活を体験しました。

運動・感覚機能を低下させる器具等を装着して文字を書いたり、階段を上り下りしたり、箸で豆をつかむ体験をしたりした生徒は、「高齢者が、こんなにも動きづらいことを体験して初めてわかった」と驚いていました。

高齢者の生活の苦労を体感することで、今後のお年寄りへの接し方を考えるよい機会になったようです。

▲ゴーグルやおもりを着けて階段を下りる体験をする生徒

No.4 忍者とくすりに新たな風を
甲南高校オリジナル兵糧丸作り

"甲賀流"高校生プロジェクト「Kohnanオリジナル兵糧丸作り」が2月12日、くすり学習館で行われ、甲南高校の生徒会執行部と「バイオとかがく系列」の生徒17人が参加しました。

甲南高校では、「忍者とくすり」に関する授業の中で忍者の携帯食とも言われた兵糧丸を作る体験を行っています。

この日は、栄養や色、風味を生徒たちが考案してオリジナル兵糧丸作りに挑戦しました。生徒たちは、出来上がった兵糧丸を試食し、味や色を検証して、忍者とくすりにちなんだ新たな商品化の実現に向けてアイディアを出し合っていました。

▲忍者に扮して兵糧丸を考案する生徒たち

であいこうか DEAI KOKA

言葉で伝える柔の道
視覚障害者女子柔道日本代表コーチ（甲南高等養護学校）
坂下和子（さかしたかずこ）さん

視覚障害者女子柔道で昨夏のリオデジャネイロパラリンピックに日本代表コーチとして帯同し、滋賀県の東京五輪・パラリンピックでのホストタウン登録にも貢献している坂下さんにお話を伺いました。

INTERVIEW

▶リオ五輪で感じたことや東京五輪に向けての思いは?

階級にもよりますが、女子では日本の大学生と同等のレベルがあるほど、世界の柔道はレベルが高いです。東京五輪では、メダルを取らせたいが、今は目の前にあるやるべきことを一つひとつ整理して着実にやり抜くことがメダルへの一歩だと考えています。

▲トルコ選手とリオ五輪で交流する坂下さん（左）

▶指導で心掛けていることは?

視覚に障がいがある方には、「あれ」、「それ」、「これ」では伝わりません。明確な言葉で伝えることが大事です。言葉の意味を理解できれば、人間の身体の感覚はすごいもので言葉からイメージして動くことができます。また、「考えさせる」「気づかせる」「まわりをみる」「楽しませる」ことを心掛け、学校や柔道を通して社会で生きていくための人間力を高める指導をしたいです。

▶交流のあるヨーロッパで感じたことは?

ヨーロッパでは、視覚障がい者だけでなく、知的障がい者等の方とも柔道の稽古を一緒にしましたが、障がいの有無にかかわらず、みんなで楽しむという精神が根付いている地域だと感じました。日本でも「楽しむ」ことを合言葉に誰もが集い交流できる場所づくりの実現に少しでも力を貸したいです。

▲リオ五輪視覚障がい者女子柔道メンバー